2019.4.5　VOL.37　近畿財務局大津財務事務所

ちほめんNEWS

海なし県の離島 沖島　応援プロジェクト

【取組までの経緯】

きっかけは、2018年2月に当局が滋賀県立大学で開催した「滋賀県の観光資源発掘に向けたセミナーＩＮ彦根市～大学生のアイデアと古民家を活かして～」企画（ちほめんニュース17号参照）。

そこで、地域のために活動する「TEAMちほめん」を知っていただいた滋賀県立大学の上田先生から、**「沖島の活性化に取り組む学生「座・沖島(※)」にちほめんの力を貸して欲しい。」**とオファーがありました。

早速、我々ちほめんに何ができるのか…。
そもそも「沖島」ってどんなところ？
まずは「沖島を知る」ことからスタートしました。

※ 座・沖島
沖島の振興のためイベントの開催や地域行事のお手伝いなどを行う滋賀県立大学の学生プロジェクト。

【事前勉強会】

沖島を知るには、現地を見るのが一番！ということで県立大の上田先生や座・沖島の学生さんに現地案内をしていただき、その後、意見交換会を行うことになりました。

しかし、沖島に行ったことがあるちほめんは、大津の事務所で僅か1名。現地へ行く前に、沖島に関する基本情報を入手し、事前勉強会を実施しました。

【沖島の現状と課題】

○ 近江八幡市から琵琶湖の沖合約1.5㎞に浮かぶ琵琶湖最大の島。

○ **日本で唯一の淡水湖に浮かぶ有人島。**

○ **人口は**、1958年の812名から、現在、**約280名まで減少。**
また、**65歳以上の高齢化率は60%超**。

○ **生業は、主に漁業。**琵琶湖の水質悪化や外来魚の増加により、**漁獲高は大幅に減少。**

○ **少子高齢化と過疎化が進み、暮らしとなりわいの継承が危ぶまれている。**

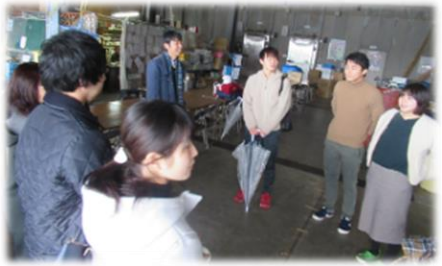
○ 2013年7月、離島振興法による**離島振興対策実施地域に指定**。
沖島町離島振興推進協議会を設立し、持続可能な島づくりに取り組んでいる。

【現地視察】

2019年2月28日　現地視察当日、あいにくの雨。

近江八幡市堀切港から船に乗り、約10分で沖島に到着。

この**通船は、自治会自らが運営**していますが、**高齢化が進み、今後の航路維持に不安**があるそうです。



島を視察する前に、参加者の自己紹介。その後、学生や地元協議会の方々に島を案内してもらいました。

← 初対面で緊張した様子の学生とちほめん

← **夏の沖島【ちほめん撮影】**

近年、沖島には、釣りのほか、インスタ映えするスポットとして年間約2万人の観光客が訪れるそうです。

現在、港近くの空き地には、「島民や観光客の憩いの場」として、滋賀県立大学環境建築デザイン学科の学生が島民と一緒にユニークな休憩所を制作中。

材料は島で調達した流木や漁に使用していたロープなどを使用しているそうです。

島には、大きな道路がなく、車やバイクが1台もありません。狭い路地に民家が立ち並んでいます。

島民の移動手段として最もメジャーなのはこの三輪車。

転ばずに荷物がたくさん運べるので、島暮らしには欠かせないそうです。

島では漁業のほかに、農業も営んでいますが、近年、**イノシシによる農作物の被害が深刻**とのことです。

特産品として地元小学校の児童が考案したアイスクリームの原料となるサツマイモは、ほぼ全滅状態。

琵琶湖を泳いで生息域を拡大するイノシシ対策が急務になっています。

【意見交換会】

視察後は、島のカフェで「ランチ&意見交換会」。

カフェのオーナーは、いったん島を出たそうですが、島の魅力を再認識しＵターン移住。食材は、すべて沖島で取れた湖魚や野菜を使用しているそうです。

アユやフナ、ホンモロコなど貴重な湖魚をおいしくいただきました。

意見交換会には、上田先生や学生、地元協議会の方にもご参加いただきました。

地元では、観光振興のため漁業体験ツアーを企画しているそうですが、**各種法規制の壁に当たっているとのこと。**その他、様々な課題や沖島に対する熱い思いをお伺いしました。

【今後の活動について】

島では、**「学生や観光客など若い人が、島に来て笑顔でいると、島全体が元気になる。」「島を盛り上げようと活動する学生たちの姿に、地元島民や島外に住む他出者たちも、観光振興や外部との交流に積極的になってきている。」**とのことでした。

島での生活は、のんびりとしていて時間の流れを忘れさせてくれますが、その一方、少子高齢化・過疎化は加速しています。

島民の思いは、「今まで通り、これからも島で暮らしていきたい」。

今後、我々ちほめんは、島の方々のお役に立てるよう、学生や島の方々と共に取り組んでいきたいです。

【参加者の声】

○ 島を盛り上げるため、**同世代の若者同士、一緒に活動してほしい。**

○ 若い世代の人が、沖島に興味を持ち、島に来てくれることがうれしい。これからも、**一人でも多くの人に、島に来てもらいたい。**

【ちほめんの感想】

○ 沖島からの景観や郷土料理、島民の方々の人柄に感銘を受けました！

○ 沖島の生活が続いていくために手助けできることを考えていきたい。

○ 今までの“あたりまえ”をこれからもあたりまえに続けていくという一番難しい課題に対して、明るく前向きに取り組む学生や地元の方の姿をとても頼もしく感じるとともに、どうにか応援していきたいと思いました。

○ 課題の先進地ともいえる「沖島」がその課題を乗り越え、今後も平穏な暮らしが持続できるよう、取り組んで参ります！

座・沖島の学生や地元の方々と記念撮影